

高浜2号機 再循環ユニット冷却水配管設置工事(2次系)

[工事目的]

シビアアクシデント(冷却材喪失事故+全交流電源喪失+最終ヒートシンク喪失(原子炉補機冷却水系機能喪失等))を想定した場合の原子炉格納容器内圧上昇による破損防止対策として、大容量ポンプからA格納容器循環冷暖房ユニットへ海水を通水することにより、格納容器圧力の上昇を低減することを目的として海水供給配管等を設置する。併せて、B充てん/高圧注入ポンプ、B余熱除去ポンプを冷却する海水通水用配管等も設置する。

この対策により、シビアアクシデント発生時においても、原子炉補機冷却水の冷却に依らず格納容器内の冷却を行えるようになり、格納容器損傷防止の信頼性が向上する。

[工事概要]

○格納容器再循環ユニットへの海水供給・排水配管等を設置する。

高浜 2 号機における海水管に係る改造工事について

高浜 2 号機の海水管については、以下の改造工事の実施を計画しています。

1. 海水管他設置工事

耐震安全性向上のため、海水管が設置されている地盤支持性能を向上させることを目的に海水管トンネルを強固な地盤に設置し、海水管を移設する。

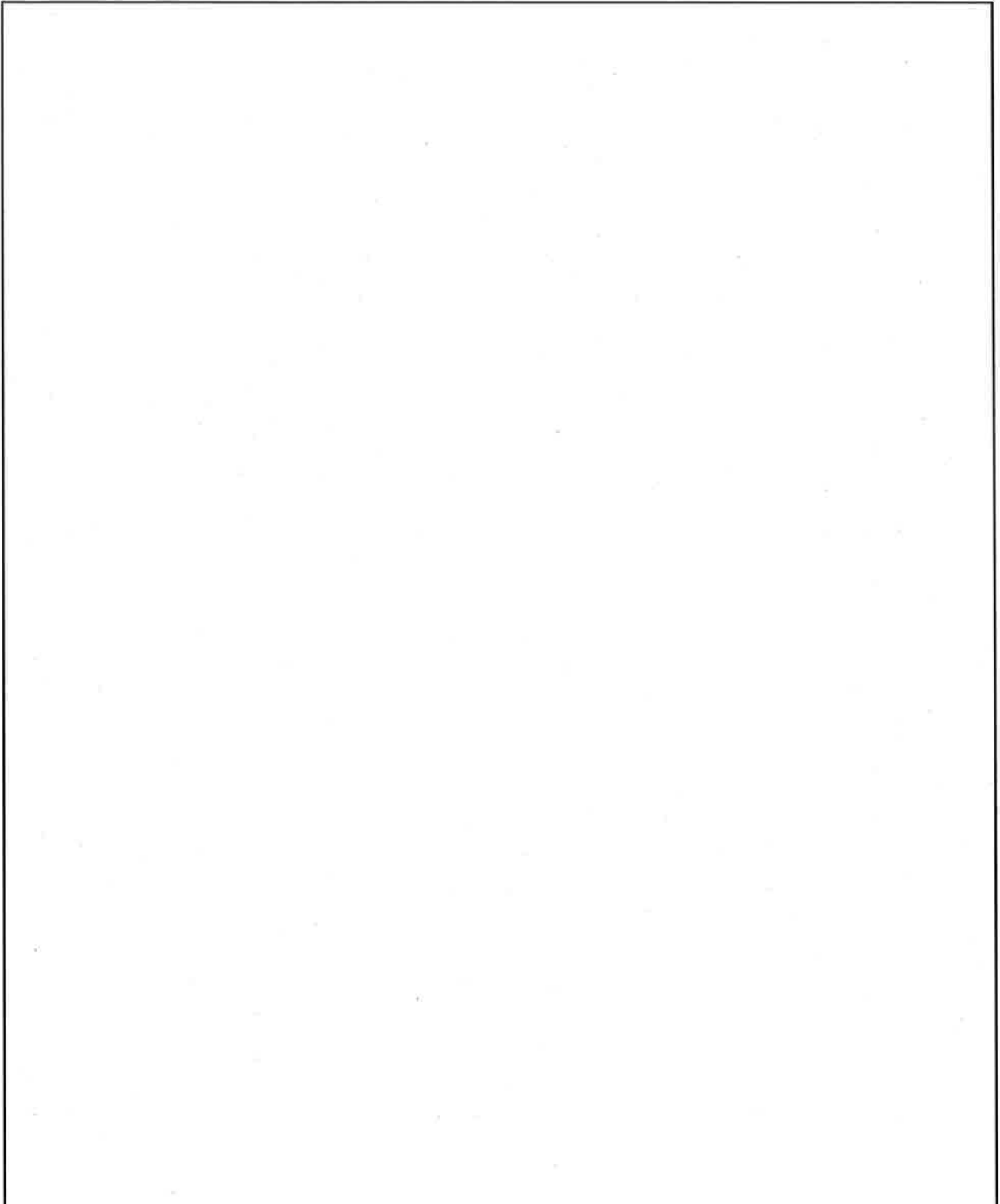
高浜 2 号機 基準地震動追加による海水管他設置工事のうち 海水管移設

【工事目的】

耐震安全性向上のため、海水管が設置されている地盤支持性能を向上させることを目的に、海水管を強固な地盤に移設する。

【工事概要】

強固な地盤に海水管トンネルを設置し、海水管を敷設する。



(8) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変 更 前				変 更 後							
名 称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外 径 (mm)	厚 度 (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外 径 (mm)	厚 度 (mm)	材 料
原子炉補機冷却設備	(注1) 0.98	95	(注3) 406.4	(注3) 9.5	SS41	変更なし	変更なし	変更なし	406.4	(注3) 9.5	SM400B
1次系冷却水 クロー A、B、C ～ 供給母管	(注2) 0.98	95	—			変更なし	(注4) 0.98	(注4) 95	(注3, 5, 6) 406.4	(注3, 5, 6) 9.5	(注5, 6) SS41
1次系 冷却水クロー A、B、C 分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 406.4	(注3) 9.5	SS41	変更なし	変更なし	変更なし	(注3) 406.4	(注3) 9.5	SM400B

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
(注72) 海水供給母管 分岐点 及び 1次系 冷却水クローラ A、C入口ライン レジューサ (30×24) ～ 1次系冷却水 クローラ A、B、C	(注2) 0.7	40	(注3) 609.6	(注3) 12	SS41	原子炉補機冷却設備	変更なし	変更なし	(注3) 609.6	(注3) 12.0	SM400B
	(注2) 0.7	40	(注3) 609.6	(注3) 12	SS41		(注4) 0.7	40	(注3,5,6) 609.6	(注3,5,6) 12.7	(注5,6) SS41
原子炉補機冷却設備	(注2) 0.7	40	(注3) 609.6	(注3) 12	SS41	変更なし	変更なし	変更なし	(注3) 609.6	(注3) 12.0	SM400B
	(注2) 1.2	40	(注3) 609.6	(注3) 12	SS41	変更なし	変更なし	変更なし	(注3) 609.6	(注3) 12.0	SM400B
	(注4) 1.2	40	(注3,5,6) 609.6	(注3,5,6) 12.7	SS41	(注4) 1.2	40	(注3,5,6) 609.6	(注3,5,6) 12.7	(注5,6) SS41	

変更前					変更後						
名称	最高使用圧 (MPa)	最高温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備						原子炉補機冷却設備					
(注74) 海水戻り母管 分岐点A ～ 海水戻り母管 合流点	—	—	—	—		変更なし	(注4) 0.7	(注4) 40	(注3) 914.4 — — 609.6	(注3) 12.7 — — 12.7	SM400B
(注74) 海水戻り母管 合流点 ～ 中間建屋出口 (埋設部除く)	(注2) 0.7	40	(注3) 914.4	(注3) 12.7	SS41			— (注11)			

変 更 前					変 更 後							
名 称	最高使用 压	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	壁厚 (mm)	材 料	名 称	最高使用 压	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	壁厚 (mm)	材 料	
	(MPa)						(MPa)					
						B1次系 冷却水クロー 入口配管分岐点 (補機冷却海水側)			(注3)	216.3	(注3,50) 8.2	STPT370
									(注4)	216.3	(注3)	
					原子炉補機冷却設備 ～ B1次系 冷却水クロー 出口配管合流点 (原子炉補機 冷却水側) 及び B1次系 冷却水クロー 海水供給接続口				40	8.2	／	
									(注4)	216.3	(注3)	8.2
									(注3)	216.3	(注3,50) 8.2	STPT370
								95	(注3)	216.3	(注3,50) 8.2	STPT370

変更前					変更後						
名 称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	壁厚 (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	壁厚 (mm)	材 料
						B余熱除去ポンプ 出口配管分岐点 ～	(注4) 1.2	(注4) 9E	(注3) 48.6	(注3) 3.7	STPT370
						B余熱除去ポンプ 海水排水用ホース 上流側取合点					
						B余熱除去ポンプ 海水排水用ホース 下流側取合点 ～ 海水戻り母管 合流点	(注4) 0.7	(注4) 4C	(注3) 48.6	(注3) 3.7	STPT370
原子炉補機冷却設備											

変更前				変更後			
名称	最高使用圧 (MPa)	最高温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	口径厚 (mm)	外径 (mm)	口径厚 (mm)
	可搬型原子炉 補機冷却水 循環ポンプ 出口接続点 ～ 可搬型原子炉 補機冷却水 循環ポンプ 出口配管合流点 A海水供給母管 接続口 ～ Aa、Ab 海水ストレーナ 入口配管合流点	(注4) 0.33	(注4) 40	(注4) 34.0	(注3) 3.4	(注3,50) 3.4	(注3) 267.4
原子炉補機冷却設備							
(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クローラA、B、C～テイ (20×20×16)」と記載 (注2) SI単位に換算したものである。 (注3) 公称値							

- (注4) 重大事故等時における使用時の値
- (注5) 本設備は既存の設備である。
- (注6) エルボを示す。
- (注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クローラ出口連絡管」と記載
- (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッドA、B：テイ (20×20×16) ～レジュューサ (20×14)」と記載
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (20×14) ～内部スプレクーラ」と記載
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッドC：テイ (16×16×16) ～レジュューサ (16×12)」と記載
- (注11) 当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッドC：レジュューサ (16×12) ～テイ (20×20×16)」と記載
- (注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッドA、B：内部スプレクーラ～レジュューサ (20×14)」と記載
- (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッドA、B：レジュューサ (20×14) ～テイ (20×20×16)」と記載
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ入口連絡管」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「テイ (20×20×16) ～1次系冷却水ポンプA、B、C、D」と記載
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口レジュューサ (16×12) ～テイ (20×20×16)」と記載
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口連絡管」と記載
- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプA、D出口テイ(20×20×16) ～1次系冷却水クローラA、C入口テイ (20×20×16)」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クローラ入口連絡管」と記載
- (注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「テイ (20×20×16) 及びレジュューサ (20×16) ～1次系冷却水クローラA、C及びB」と記載
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～余熱除去クローラ (RH-2) A、B」と記載
- (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クローラ (RH-2) A、B～戻母管合流点」と記載
- (注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～冷却材ポンプA、B、Cへの分岐点」と記載

- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却材ポンプB、Cからの合流点～弁（2-FCV-1241）」と記載
- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却材ポンプA、Bからの合流点～戻管（8B）合流点」と記載
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次冷却水ポンプ入口分岐点～弁（2-5105A、B）」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-5105A、B）～1次系冷却水タンク」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管A、B分岐点～燃料ピットクローラ」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料ピットクローラ～1次系機器冷却水戻母管A、B合流点」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余剰抽水クローラ」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余剰抽水クローラ～1次系機器冷却水戻母管（10B）合流点」と記載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管～レジュューサ（3×2）」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ（3×2）～計器用コンプレッサパッケージIA-1A、IA-1B入口レジュューサ（2×1 1/2）」と記載
- (注35) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「計器用コンプレッサパッケージIA-1A、IA-1B出口レジュューサ（2×1 1/2）～レジュューサ（3×2）」と記載
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ（3×2）～1次系機器冷却水戻母管」と記載
- (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置入口レジュューサ（3×2）」と記載
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ（3×2）～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジュューサ（4×2）」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ（4×2）～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよびスプレポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～レジュューサ（2×1 1/2）」と記載
- (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ冷却ライン分岐点～余熱除去ポンプ入口レジュューサ（1 1/2×1/2）」と記載

- (注43) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (2×1 1/2) ～内部スプレポンプ入口分岐点」と記載
- (注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ入口分岐点～レジュューサ (1×1/2)」と記載
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (1×1/2) ～内部スプレポンプ出口合流点」と記載
- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ出口合流点～レジュューサ (2×1 1/2)」と記載
- (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ出入口管」と記載
- (注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ出口レジュューサ (1 1/2×1/2) ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ冷却もどりライン合流点」と記載
- (注50) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (2×1 1/2) ～レジュューサ (3×2)」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジュューサ (12×10)」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (12×10) ～レジュューサ (10×6)」と記載
- (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～レジュューサ (6×4)」と記載
- (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (6×4) 及び分岐点～レジュューサ (4×2)」と記載
- (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (4×2) および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載
- (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (4×2) ～レジュューサ (6×4) 及び合流点」と記載
- (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (6×4) ～VS-39Bからの合流点 (VS-39A)」と記載
- (注59) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (10×6) ～レジュューサ (12×10)」と記載
- (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (12×10) ～レジュューサ (12×8)」と記載
- (注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (12×8) ～レジュューサ (12×8)」と記載
- (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (12×8) ～1次系機器冷却水戻管合流点」と記載
- (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～充てん/高圧注入ポンプ分岐点」と記載
- (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ入口分岐点～レジュューサ (2×1 1/2) および (2 1/2×2)」

と記載

(注65) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (2×1 1/2) ～充てん／高圧注入ポンプ～レジュューサ (2×1 1/2)」と記載

と記載

(注66) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (2 1/2×2) 充てん／高圧注入ポンプ～レジュューサ (2 1/2×2)」と記載

(注67) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (2×1 1/2) およびレジュューサ (2 1/2×2) ～充てん／高圧注入ポンプ出

口合流点」と記載

(注68) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口合流点～充てんポンプ室空調装置冷却戻ライン合流点」

と記載

(注69) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプから中間建屋入口まで」と記載

(注70) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載

(注71) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「中間建屋入口～海水母管分岐点及びレジュューサ (30×24)」と記載

(注72) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点及びレジュューサ (30×24) ～1次系冷却水クローラ」と記載

(注73) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クローラ～戻母管」と記載

(注74) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「中間建屋出口までの戻母管 (埋設部除く)」と記載

(注75) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「戻母管分岐点～ラプチャディスク」と記載

(注76) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～連絡管レジュューサ (10×8)」と記載

(注77) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「連絡管分岐点～ディーゼル発電機」と記載

(注78) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電機～レジュューサ (12×8) 及び合流点」と記載

(注79) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (12×8) ～海水戻母管」と記載

(注80) STPT38同等材 (STPT370) への取替えを行う。

(注81) STPG42同等材 (STPG410) への取替えを行う。

(注82) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPG42」と記載

(注83) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

以下の設備のうち貫通配管は、既存の原子炉格納施設のうち原子炉格納容器（原子炉格納容器配管貫通部）であり、原子炉補機冷却設備として本工事計画で兼用とする。

- ・ 常設

格納容器貫通部（貫通部番号256）

格納容器貫通部（貫通部番号257）

		変更前				変更後									
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材	料	名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材	料
原子炉補機冷却設備															
海水供給母管 分岐点 及び 1次系 冷却水クーラ A、C人口ライン レジューター (30×24) ～ 1次系冷却水 クーラ A、B、C		0.7	40	609.6 (#2, 80)	12 (#2, 80)	SS400 (#2, 80)									
		0.7 (#4)	40 (#10)	609.6 (#3, 6, 84)	12.0 (#3)	SM400B (#3, 84)									
		0.7	40	609.6 (#3, 84)	12 (#3, 84)	SS400 (#3, 84)									
		1.2 (#14)	40	609.6 (#3)	12.0 (#4)	SM400B (#3)									
		1.2 (#14)	40 (#14)	609.6 (#3, 6, 84)	12.7 (#3, 6, 80)	SS400 (#6, 84)									

変更なし

変更前				変更後			
名	称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材	料
原子炉補機冷却設備	海水戻り母管 分岐点A ～ 海水戻り母管 合流点	0.7	40	914.4	12.7	SM400B	
							変更なし

- (注43) 既工事計工書に記載がないため記帳の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注44) 記帳の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2×1 1/2) ～内部スプレポンプ入口分岐点」と記載
- (注45) 記帳の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ入口分岐点～レジャーサ (1×1/2)」と記載
- (注46) 記帳の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (1×1/2) ～内部スプレポンプ出口合流点」と記載
- (注47) 記帳の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ出口合流点～レジャーサ (2×1 1/2)」と記載
- (注48) 記帳の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ出入口等」と記載
- (注49) 記帳の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ出口レジャーサ (1 1/2×1/2) ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ冷却もどりライン合流点」と記載
- (注50) エルボ等については管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注51) 記帳の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2×1 1/2) ～レジャーサ (3×2)」と記載
- (注52) 記帳の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水長管分岐点～レジャーサ (12×10)」と記載
- (注53) 記帳の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (12×10) ～レジャーサ (10×6)」と記載
- (注54) 記帳の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～レジャーサ (6×4)」と記載
- (注55) 記帳の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (6×4) 及び分岐点～レジャーサ (4×2)」と記載
- (注56) 記帳の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×2) および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載
- (注57) 記帳の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×2) ～レジャーサ (6×4) 及び合流点」と記載
- (注58) 記帳の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (6×4) ～VS 39Bからの合流点 (VS 39A)」と記載
- (注59) 記帳の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (10×6) ～レジャーサ (12×10)」と記載
- (注60) 記帳の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (12×10) ～レジャーサ (12×8)」と記載
- (注63) 記帳の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ空調装置冷却ライン分岐点～充てん/高圧注入ポンプ分岐点」と記載
- (注64) 記帳の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ入口分岐点～レジャーサ (2×1 1/2) および (2 1/2×2)」

と記載

(注65) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュマサ (2×1 1/2) ～充てんノ高圧注入ポンプ～レジュマサ (2×1 1/2)」と記載

と記載

(注66) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュマサ (2 1/2×2) 充てんノ高圧注入ポンプ～レジュマサ (2 1/2×2)」と記載

(注67) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュマサ (2×1 1/2) およびレジュマサ (2 1/2×2) ～充てんノ高圧注入ポンプ出口合流点」と記載

と記載

(注68) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんノ高圧注入ポンプ出口合流点～充てんポンプ室空調装置冷却戻ライン合流点」と記載

と記載

(注69) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプから中間建屋入口まで」と記載

(注70) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載

(注71) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「連絡管分岐点～ディーゼル発電機」と記載

(注72) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電機～レジュマサ (12×8) 及び合流点」と記載

(注73) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュマサ (12×8) ～海水戻管1」と記載

(注74) STPT38同等材 (STPT370) への取替えを行う。

(注75) STPG42同等材 (STPG410) への取替えを行う。

(注76) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPG42」と記載

(注77) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、干渉対象外である。

(注78) SS41同等材 (SS400) への取替えを行う。

(注79) 注記について記載の適正化を行う。平成28年6月10日付け原規規発第1606105号にて認可された既工事計画書に記載の「重大事故

等時における使用時の値」を削除

(注80) 記載の適正化を行う。平成28年6月10日付け原規規発第1606105号にて認可された既工事計画書には変更後に記載

高浜 1・2号機 基準地震動追加による燃料取替用水タンク取替 工事のうち燃料取替用水タンク購入

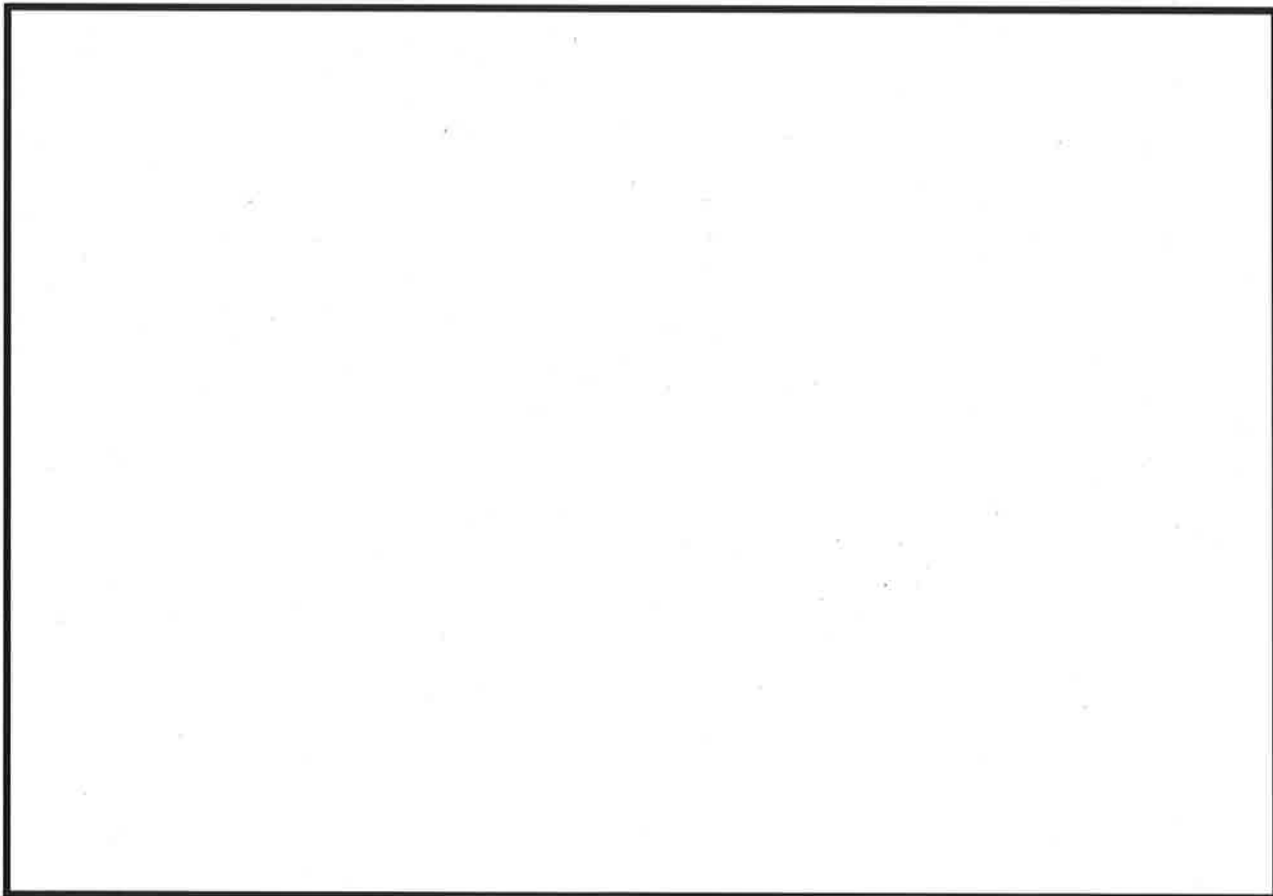
【工事目的】

基準地震動追加に伴い、燃料取替用水タンクおよび基礎ボルトの取替えを実施するものである。

【工事概要】

燃料取替用水タンクは、平底円筒形の大型タンクであり、タンク固有周期が床応答曲線のピーク周期帯となり、応答加速度が大きくなるため、胴板および基礎ボルトの耐震性が厳しい。よって、胴板の増厚および基礎ボルトのサイズアップを実施するものである。

【概略系統図】

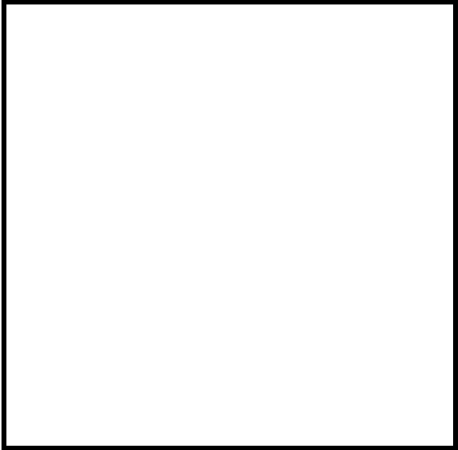

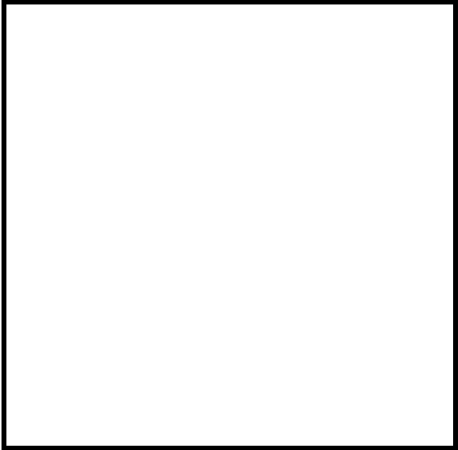

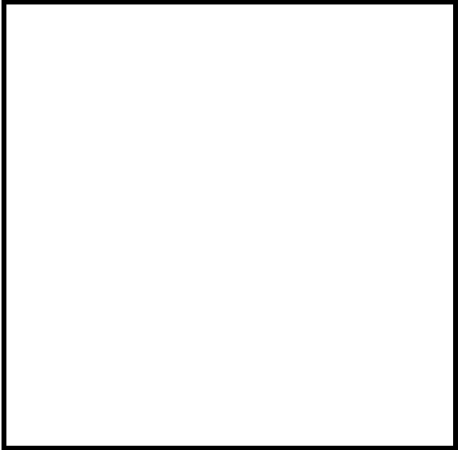

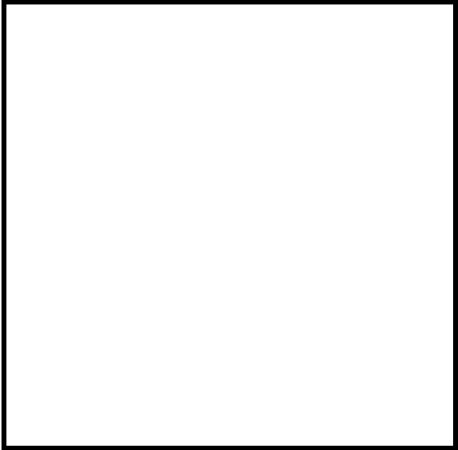



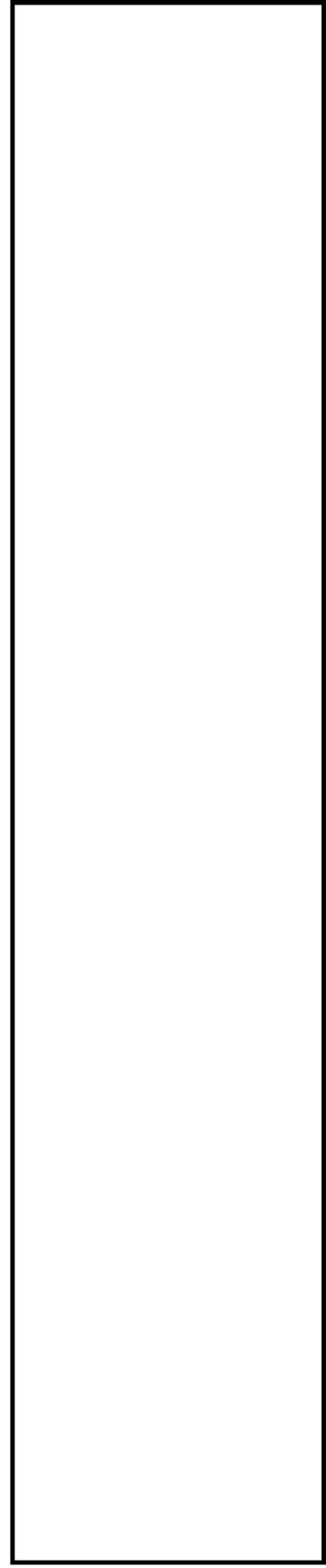
・常設

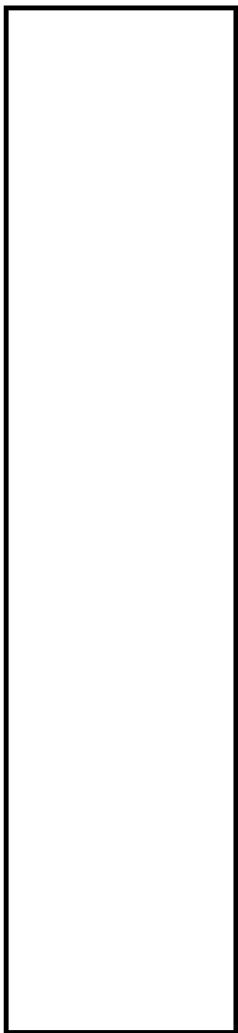
(1/3)

名称		変更前	変更後
種	類	燃料取替用水タンク	燃料取替用水タンク (注1)
容	量	たて置円筒形	
最	高使用圧力	大気圧	同左
最	高使用温度	95	
胴内径			
胴板厚さ			
屋根板厚さ			
底板厚さ (注2)			
出口管除去ポンプ) 径			
出口管除去ポンプ) 厚			
主要寸法			

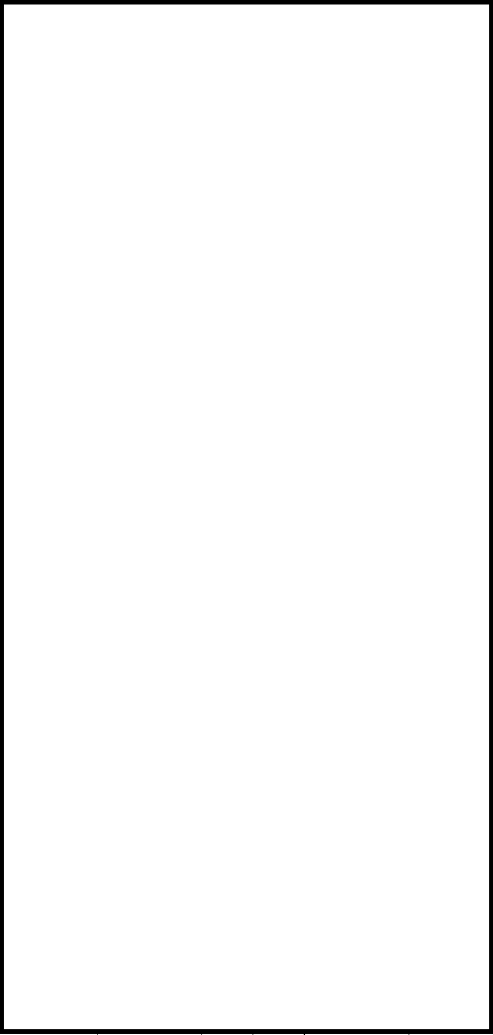
変更前		変更後	
主要寸法			
出口 (内部スプレポンプ) 外	台 径	mm	
出口 (内部スプレポンプ) 厚	台 径	mm	
給水入口 管台	外 径	mm	
給水入口 管台	厚 さ	mm	
出口 (充てん/高圧注入ポンプ) 外	台 径	mm	
出口 (充てん/高圧注入ポンプ) 厚	台 径	mm	
出口 (燃料取替用水ポンプ) 外	台 径	mm	
出口 (燃料取替用水ポンプ) 厚	台 径	mm	

		変更前		変更後				
主要寸法	側マンホール管台外径	mm		同左				
	側マンホール管台厚さ	mm						
	側マンホールふた厚さ	mm						
	高さ <small>(注7)</small>	mm						
材料	胴板	—		同左				
	屋根板	—						
	底板 <small>(注8)</small>	—						
	側マンホールふた	—						
個	数	—		同左				
取付箇所	系統名 (ライン名)	—					同左	
	設置床	—						
	溢水防護上の 区画番号	—						
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—						

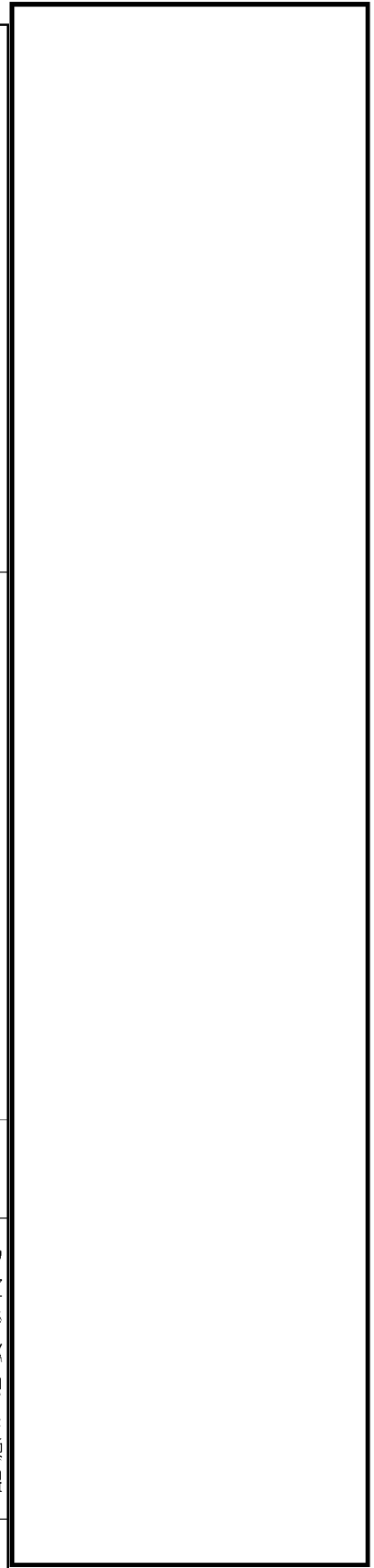


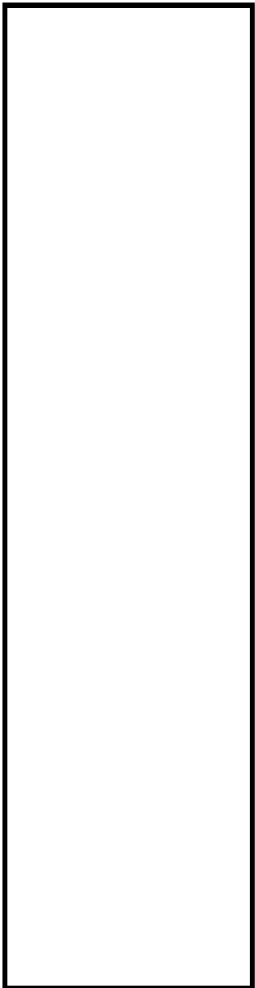


(2/3)

変更前		変更後	
主要寸法			
出口スプレポンプ (内部管台径)	mm		
出口スプレポンプ (内部管台厚)	mm		
給水入口管台外径	mm		
給水入口管台厚さ	mm		
出口管 (充てん/高圧注入ポンプ)	mm		
出口管 (充てん/高圧注入ポンプ)	mm		

		変更前		変更後	
主要寸法	側マンホール管台外径	mm	[Redacted]	同左	[Redacted]
	側マンホール管台厚さ	mm			
	側マンホールふた厚さ	mm			
	高さ (注7)	mm			
材料	胴板	—	[Redacted]	同左	[Redacted]
	屋根板	—			
	底板 (注8)	—			
	側マンホールふた	—			
個	数	—			
取付箇所	系 (ライン名)	—	燃料取替用水ライン (注9)		
	設置床	—	[Redacted]		
	溢水防護上の区画番号	—			
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—			





高浜2号機 1次系冷却水クーラ廻り海水管修繕工事の概要

[工事目的]

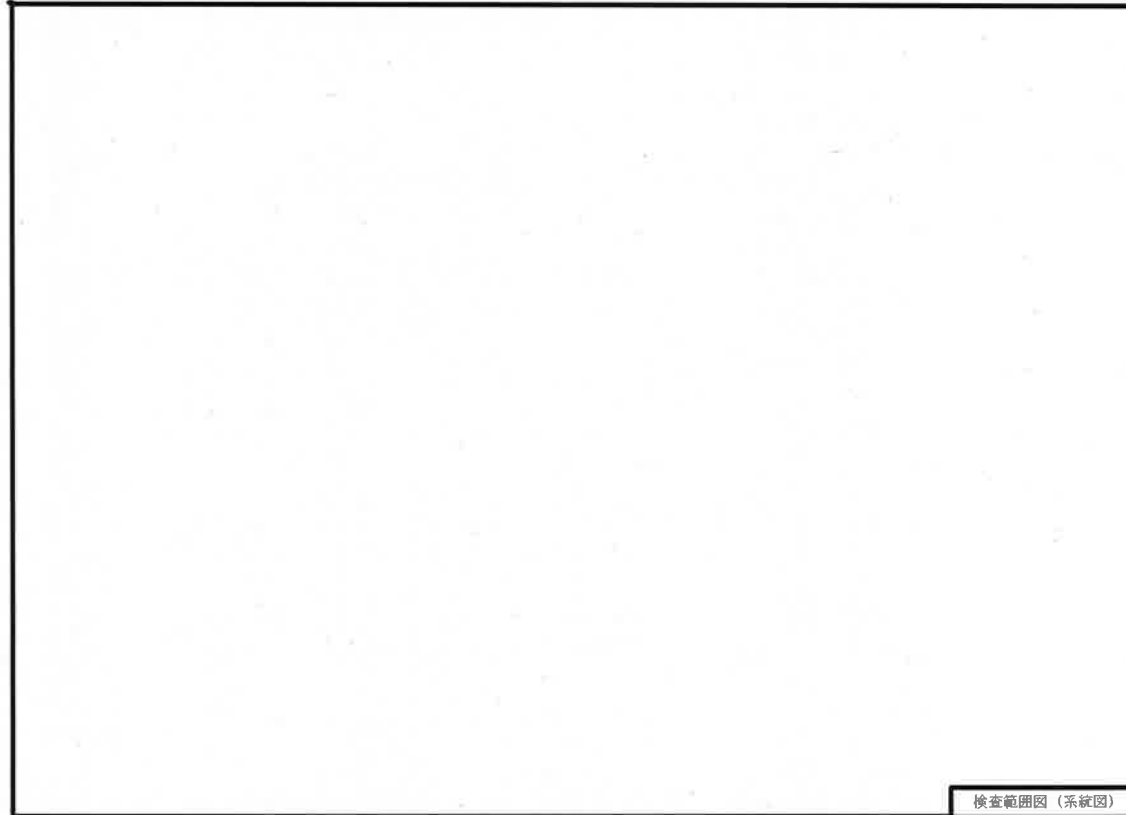
高浜1/2号機 大型改造工事に係る詳細な現場調査を通じ、2号機については海水管取替工事や再循環ユニット冷却水配管設置工事に伴う大容量ポンプ接続管台取付及び配管敷設において、既設海水管の一部が干渉し、配管の取外しを行うことが判明した。

新規制基準対応工事完了後のプラント寿命と既設海水管内面ライニングの長期使用による経年劣化等を勘案し、他の同種・同仕様配管と合わせ、配管取替を行う。

[工事概要]

○1次系冷却水クーラ廻りの海水管について、同材取替(SS41→SS400)を実施する。

系統概要



変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
(注71)	(注2)	40	762	(注3)	SS41	原子炉補機冷却設備	変更なし	変更なし	762.0	12.7	SM400B
中間建屋入口	0.7			12							
A、B系						原子炉補機冷却設備	変更なし	0.7	762.0	12.7	SS41
～											
海水供給母管											
分岐点											
及び											
I次系						原子炉補機冷却設備	変更なし	0.7	609.6	12.7	SS41
冷却水クーラ											
A、C入口ライン											
レギュレーサ						原子炉補機冷却設備	変更なし	0.7	762.0	12.7	SS41
(30×24)											
									762.0	12.7	

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備	(注71) 中間建屋入口 A、B系 ～ 海水供給母管 分岐点 及び 1次系 冷却水クーラ A、C入口ライン レジューサ (30×24)	(注2) 0.7	40	(注3) 762	(注3) 12	原子炉補機冷却設備	変更なし	(注4) 変更なし	762.0	12.7	SM400B
							変更なし				
原子炉補機冷却設備	変更なし	(注4) 1.2	40	762.0	12.7	変更なし	(注4) 1.2	(注4) 40	762.0	12.7	SS41

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
(注72) 海水供給母管 分岐点 及び 1次系 冷却水クーラ A、C入口ライン レジュューサ (30×24) ～ 1次系冷却水 クーラ A、B、C	(注2) 0.7	40	(注3) 609.6	(注3) 12	SS41	原子炉補機冷却設備	変更なし	変更なし	609.6	12.0	SM400B
	(注2) 0.7	40	(注3) 609.6	(注3) 12	SS41						
原子炉補機冷却設備	(注4) 0.7	40	(注3, 5, 6) 609.6	(注3, 5, 6) 12.7	(注5, 6) SS41	原子炉補機冷却設備	変更なし	40	609.6	12.7	SS41
	(注4) 1.2	40	(注3, 5, 6) 609.6	(注3, 5, 6) 12.7	(注5, 6) SS41						
原子炉補機冷却設備	(注4) 1.2	40	(注3, 5, 6) 609.6	(注3, 5, 6) 12.0	SM400B	原子炉補機冷却設備	変更なし	40	609.6	12.0	SM400B
	(注4) 1.2	40	(注3, 5, 6) 609.6	(注3, 5, 6) 12.7	(注5, 6) SS41						

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備	0.7 (注2)	40	609.6 (注3)	12 (注3)	SS41	原子炉補機冷却設備	0.7 (注4)	40 (注4)	609.6 (注3,5)	12.7 (注3,5,6)	SS41 (注5,6)
変更なし											

変更前					変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	
(注74) 海水戻り母管 分岐点A ～ 海水戻り母管 合流点	—	—	—	—		変更なし	(注4)	(注4)	(注3)	(注3)	(注3)	
							0.7	40	914.4	12.7	—	—
(注74) 海水戻り母管 合流点 ～ 中間建屋出口 (埋設部除く)	(注2) 0.7	40	914.4	12.7	SS41			— (注11)				
原子炉補機冷却設備						原子炉補機冷却設備						

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
(注75) 海水戻り母管 分岐点	(注2) 0.7	40	(注3) 609.6	(注3) 12	SS41	変更なし	(注4) 0.7	(注4) 40	(注3, 5, 6) 609.6	(注3, 5, 6) 12.7	(注5, 6) SS41
	—						変更なし				
(注76) 屋外放出端						原子炉補機冷却設備					
海水母管分岐点 ディーゼル 発電機A、B行き ～ ディーゼル 発電機 海水入口ライン 連絡配管 レギュレーサ (10×8)	(注2) 0.7	40	(注3) 273.1	(注3) 9.3	STPG410	変更なし					
	—						変更なし				

変更前					変更後								
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
原子炉補機冷却設備							可搬型原子炉						
							補機冷却水 循環ポンプ 出口接続点 ～	(注4)	(注4)	(注3)	(注3,50)	STPT370	
原子炉補機冷却設備							可搬型原子炉	0.33	40	34.0	3.4		
							補機冷却水 循環ポンプ 出口配管合流点	(注4)	(注4)	(注3)	(注3,50)	STPT370	
原子炉補機冷却設備							A海水供給母管						
							接続口 ～ Aa、Ab 海水ストレーナ 入口配管合流点	(注4)	(注4)	(注3)	(注3,50)	STPT370	

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クローラA、B、C～タイプ (20×20×16)」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

- (注4) 重大事故等時における使用時の値
- (注5) 本設備は既存の設備である。
- (注6) エルボを示す。
- (注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クローラ出口連絡管」と記載
- (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッドA、B：テイ (20×20×16) ～レジュューサ (20×14)」と記載
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (20×14) ～内部スプレクローラ」と記載
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッドC：テイ (16×16×16) ～レジュューサ (16×12)」と記載
- (注11) 当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッドC：レジュューサ (16×12) ～テイ (20×20×16)」と記載
- (注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッドA、B：内部スプレクローラ～レジュューサ (20×14)」と記載
- (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッドA、B：レジュューサ (20×14) ～テイ (20×20×16)」と記載
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ入口連絡管」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「テイ (20×20×16) ～1次系冷却水ポンプA、B、C、D」と記載
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口レジュューサ (16×12) ～テイ (20×20×16)」と記載
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口連絡管」と記載
- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプA、D出口テイ (20×20×16) ～1次系冷却水クローラA、C入口テイ (20×20×16)」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クローラ入口連絡管」と記載
- (注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「テイ (20×20×16) 及びレジュューサ (20×16) ～1次系冷却水クローラA、C及びB」と記載
- 載
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～余熱除去クローラ (RH-2) A、B」と記載
- (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クローラ (RH-2) A、B～戻母管合流点」と記載
- (注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～冷却材ポンプA、B、Cへの分岐点」と記載

- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却材ポンプB、Cからの合流点～弁 (2-FCV-1241)」と記載
- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却材ポンプA、Bからの合流点～戻管 (8B) 合流点」と記載
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次冷却水ポンプ入口分岐点～弁 (2-5105A、B)」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-5105A、B) ～1次系冷却水タンク」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管A、B分岐点～燃料ピットクローラ」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料ピットクローラ～1次系機器冷却水戻母管A、B合流点」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余剰抽水クローラ」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余剰抽水クローラ～1次系機器冷却水戻母管 (10B) 合流点」と記載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管～レジュューサ (3×2)」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (3×2) ～計器用コンプレッサパッケージIA-1A、IA-1B入口レジュューサ (2×1 1/2)」と記載
- (注35) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「計器用コンプレッサパッケージIA-1A、IA-1B出口レジュューサ (2×1 1/2) ～レジュューサ (3×2)」と記載
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (3×2) ～1次系機器冷却水戻母管」と記載
- (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余剰除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置入口レジュューサ (3×2)」と記載
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (3×2) ～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジュューサ (4×2)」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (4×2) ～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余剰除去ポンプおよびスプレポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～レジュューサ (2×1 1/2)」と記載
- (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余剰除去ポンプ冷却ライン分岐点～余剰除去ポンプ入口レジュューサ (1 1/2×1/2)」と記載

- (注43) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (2×1 1/2) ～内部スプレポンプ入口分岐点」と記載
- (注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ入口分岐点～レジュューサ (1×1/2)」と記載
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (1×1/2) ～内部スプレポンプ出口合流点」と記載
- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ出口合流点～レジュューサ (2×1 1/2)」と記載
- (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ出入口管」と記載
- (注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ出口レジュューサ (1 1/2×1/2) ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ冷却もどりライン合流点」と記載
- (注50) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (2×1 1/2) ～レジュューサ (3×2)」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジュューサ (12×10)」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (12×10) ～レジュューサ (10×6)」と記載
- (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～レジュューサ (6×4)」と記載
- (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (6×4) 及び分岐点～レジュューサ (4×2)」と記載
- (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (4×2) および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載
- (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (4×2) ～レジュューサ (6×4) 及び合流点」と記載
- (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (6×4) ～VS-39Bからの合流点 (VS-39A)」と記載
- (注59) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (10×6) ～レジュューサ (12×10)」と記載
- (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (12×10) ～レジュューサ (12×8)」と記載
- (注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (12×8) ～レジュューサ (12×8)」と記載
- (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (12×8) ～1次系機器冷却水戻管合流点」と記載
- (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～充てん/高圧注入ポンプ分岐点」と記載
- (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ入口分岐点～レジュューサ (2×1 1/2) および (2 1/2×2)」

と記載

(注65) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (2×1 1/2) ～充てん／高圧注入ポンプ～レジェューサ (2×1 1/2)」と記載

と記載

(注66) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (2 1/2×2) 充てん／高圧注入ポンプ～レジェューサ (2 1/2×2)」と記載

(注67) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (2×1 1/2) およびレジェューサ (2 1/2×2) ～充てん／高圧注入ポンプ出口合流点」と記載

(注68) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口合流点～充てんポンプ室空調装置冷却戻ライン合流点」

と記載

(注69) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプから中間建屋入口まで」と記載

(注70) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載

(注71) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「中間建屋入口～海水母管分岐点及びレジェューサ (30×24)」と記載

(注72) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点及びレジェューサ (30×24) ～1次系冷却水クーラ」と記載

(注73) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ～戻母管」と記載

(注74) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「中間建屋出口までの戻母管 (埋設部除く)」と記載

(注75) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「戻母管分岐点～ラプチャディスク」と記載

(注76) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～連絡管レジェューサ (10×8)」と記載

(注77) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「連絡管分岐点～デIZER発電機」と記載

(注78) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「デIZER発電機～レジェューサ (12×8) 及び合流点」と記載

(注79) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (12×8) ～海水戻母管」と記載

(注80) STPT38同等材料 (STPT370) への取替えを行う。

(注81) STPG42同等材料 (STPG410) への取替えを行う。

(注82) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPG42」と記載

(注83) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

変更前				変更後			
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	径厚 (mm)	外径 (mm)	最高使用温度 (°C)
原子炉補機冷却設備	0.7	40	(注3, 84)	(注3, 84)	(注84)		
			762	12	SS400		
			(注3)	(注3)			
			762.0	12.7	SM400B		
			(注3, 6, 84)	(注3, 6, 84)	(注6, 84)		
			762.0	12.7	SS400		
			(注3, 84)	(注3, 84)			
			762.0	12.7	(注84)		
			—	—	SS400		
			609.6	12.7			
(注3, 84)	(注3, 84)						
762.0	12.7						
—	—						
762.0	12.7	(注84)					
—	—	SS400					
762.0	12.7						
原子炉補機冷却設備							
中間建屋入口							
A、B系							
～							
海水供給母管							
分岐点							
及び							
1次系	(注4)	(注4)					
冷却水クーラ	0.7	40					
A、C入ロライン							
レジューサ							
(30×24)							

変更なし

変更前				変更後						
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	径厚 (mm)	材料
中間建屋入口 A、B系	0.7	40	(注3, 84) 762	(注3, 84) 12	(注84) SS400	原子炉補機冷却設備				
	(注4) 1.2		(注3) 762.0	(注3) 12.7	SM400B					
海水供給母管 分岐点 及び 1次系 冷却水クローラ A、C入口ライン レジューサ (30×24)	(注4) 1.2	40	(注3, 84) 762.0	(注3, 84) 12.7	(注84) SS400	原子炉補機冷却設備	変更なし			
			(注4) 762.0	12.7	SS400					

変更前		変更後								
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	径厚 (mm)	外径 (mm)	最高使用温度 (°C)	径厚 (mm)	外径 (mm)	材料
中間建屋入口 A、B系 ～ 海水供給母管 分岐点 及び 1次系 冷却水クーラ A、C入口ライン レジューサ (30×24)	(注4) 1.2	(注4) 40	(注3, 84) 762.0 ／ 762.0 ／ 609.6	(注3, 84) 12.7 ／ 12.7 ／ 12.7	(注84) SS400					
原子炉補機冷却設備							変更なし			

		変更前					変更後								
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材	料	名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材	料
		原子炉補機冷却設備													
海水供給母管 分岐点 及び 1次系 冷却水クローラ A、C入口ライン レジューサ (30×24) ～ 1次系冷却水 クローラ A、B、C		0.7	40	(注3, 84) 609.6	(注3, 84) 12	(注84) SS400									
		(注4) 0.7	(注4) 40	(注3) 609.6	(注3) 12.0	(注3) SM400B									
		(注4) 0.7	(注4) 40	(注3, 6, 84) 609.6	(注3, 6, 84) 12.7	(注6, 84) SS400									
		(注4) 1.2	(注4) 40	(注3, 84) 609.6	(注3, 84) 12	(注84) SS400									
		1.2	40	(注3) 609.6	(注3) 12.0	(注3) SM400B									
		(注4) 1.2	(注4) 40	(注3, 6, 84) 609.6	(注3, 6, 84) 12.7	(注6, 84) SS400									
		原子炉補機冷却設備													
		変更なし													

変更前				変更後							
名 称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
原子炉補機冷却設備	0.7	40	(注3, 84)	(注3, 84)	(注84)	原子炉補機冷却設備	0.7	40	609.6	12	SS400
			(注3, 6, 84)	(注3, 6, 84)	(注6, 84)						
			(注3, 84)	(注3, 84)	(注84)						
1次系冷却水 クーラ A、B、C ～ 海水戻り母管 分岐点 A、B、C	(注4) 0.7	(注4) 40	(注3, 6, 84) 609.6 ／ 609.6 ／ －	(注3, 84) 12.7 ／ 12.7 ／ －	(注6, 84) SS400 ／ SS400 ／ －						

変更なし

変更前				変更後									
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
原子炉補機冷却設備							原子炉補機冷却設備						
	海水戻り母管 分岐点A ～ 海水戻り母管 合流点	0.7	40	(注3, 84)	(注3, 84)	(注84)							
				914.4	12.7	SS400							
				(注3, 6, 84)	(注3, 6, 84)	(注6, 84)							
				914.4	12.7	SS400							
		(注4)	40	(注3, 84)	(注3, 84)	(注84)							
				914.4	12.7	SS400							
				609.6	12.7								
				(注3, 84)	(注3, 84)	(注84)							
				914.4	12.7								
				609.6	12.7								

変更なし

		変更前				変更後									
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材	料	名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材	料
	原子炉補機冷却設備							原子炉補機冷却設備							
	海水戻り母管 分岐点A	(注4) 0.7	(注4) 40	914.4	12.7										
	～			/	/										
	海水戻り母管 合流点			/	/										
				609.6	12.7		SM400B								

変更なし

変更前				変更後						
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	径厚 (mm)	材料
海水戻り母管 分岐点 屋外放出端行き ～ 屋外放出端	(注85, 86) 0.7	(注85, 86) 40	(注3, 84) 609.6	(注3, 84) 12	(注84) SS400	原子炉補機冷却設備	変更なし	変更なし		
	(注4) 0.7	(注4) 40	(注3, 6, 84) 609.6	(注3, 6, 84) 12.7	(注6, 84) SS400					
海水母管分岐点 ディーゼル 発電機A、B行き ～ ディーゼル 発電機 海水入口ライン 連絡配管 レギュレーサ (10×8)	0.7	40	(注3) 273.1	(注3) 9.3	STPG410	原子炉補機冷却設備	変更なし	変更なし		

- (注43) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (2×1 1/2) ～内部スプレポンプ入口分岐点」と記載
- (注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ入口分岐点～レジェューサ (1×1/2)」と記載
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (1×1/2) ～内部スプレポンプ出口合流点」と記載
- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ出口合流点～レジェューサ (2×1 1/2)」と記載
- (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ出入口管」と記載
- (注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ出口レジェューサ (1 1/2×1/2) ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ冷却もどりライン合流点」と記載
- (注50) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (2×1 1/2) ～レジェューサ (3×2)」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジェューサ (12×10)」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (12×10) ～レジェューサ (10×6)」と記載
- (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～レジェューサ (6×4)」と記載
- (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (6×4) 及び分岐点～レジェューサ (4×2)」と記載
- (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (4×2) および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載
- (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (4×2) ～レジェューサ (6×4) 及び合流点」と記載
- (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (6×4) ～VS-39Bからの合流点 (VS-39A)」と記載
- (注59) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (10×6) ～レジェューサ (12×10)」と記載
- (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (12×10) ～レジェューサ (12×8)」と記載
- (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～充てん／高圧注入ポンプ分岐点」と記載
- (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ入口分岐点～レジェューサ (2×1 1/2) および (2 1/2×2)」

と記載

(注65) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (2×1 1/2) ～充てん/高圧注入ポンプ～レジュューサ (2×1 1/2)」と記載

と記載

(注66) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (2 1/2×2) 充てん/高圧注入ポンプ～レジュューサ (2 1/2×2)」と記載

(注67) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (2×1 1/2) およびレジュューサ (2 1/2×2) ～充てん/高圧注入ポンプ出口

口合流点」と記載

(注68) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ出口合流点～充てんポンプ室空調装置冷却戻ライン合流点」

と記載

(注69) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプから中間建屋入口まで」と記載

(注70) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載

(注77) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「連絡管分岐点～ディーゼル発電機」と記載

(注78) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電機～レジュューサ (12×8) 及び合流点」と記載

(注79) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (12×8) ～海水戻母管」と記載

(注80) STPT38同等材 (STPT370) への取替えを行う。

(注81) STPG42同等材 (STPG410) への取替えを行う。

(注82) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPG42」と記載

(注83) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

(注84) SS41同等材 (SS400) への取替えを行う。

(注85) 注記について記載の適正化を行う。平成28年6月10日付け原規規発第1606105号にて認可された既工事計画書に記載の「重大事故等時における使用時の値」を削除

(注86) 記載の適正化を行う。平成28年6月10日付け原規規発第1606105号にて認可された既工事計画書には変更後に記載

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
(注71)	(注2)	40	762	(注3)	SS41	原子炉補機冷却設備	変更なし	変更なし	762.0	12.7	SM400B
中間建屋入口	0.7			12							
A、B系						原子炉補機冷却設備	変更なし	0.7	762.0	12.7	SS41
～											
海水供給母管						原子炉補機冷却設備	変更なし	40	609.6	12.7	SS41
分岐点											
及び						原子炉補機冷却設備	変更なし	40	762.0	12.7	SS41
1次系											
冷却水クーラ						原子炉補機冷却設備	変更なし	40	762.0	12.7	SS41
A、C入口ライン											
レギュレーサ						原子炉補機冷却設備	変更なし	40	762.0	12.7	SS41
(30×24)											
						原子炉補機冷却設備	変更なし	40	762.0	12.7	SS41

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備	(注71) 中間建屋入口 A、B系 ～ 海水供給母管 分岐点 及び 1次系 冷却水クーラ A、C入口ライン レジューサ (30×24)	(注2) 0.7	40	(注3) 762	(注3) 12	原子炉補機冷却設備	変更なし	(注4) 変更なし	762.0	12.7	SM400B
							変更なし				
原子炉補機冷却設備	変更なし	(注4) 1.2	40	762.0	12.7	変更なし	(注4) 1.2	(注4) 40	762.0	12.7	SS41

変更前				変更後			
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
(注71) 中間建屋入口 A、B系 ～ 海水供給母管 分岐点 及び I次系 冷却水クーラ A、C入口ライン レジューサ (30×24)							
原子炉補機冷却設備			—				
原子炉補機冷却設備							
変更なし	(注4) 1.2	(注4) 40		(注3,5)			
							(注5) SS41

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
(注72) 海水供給母管 分岐点 及び 1次系 冷却水クーラ A、C入口ライン レジュューサ (30×24) ～ 1次系冷却水 クーラ A、B、C	(注2) 0.7	40	(注3) 609.6	(注3) 12	SS41	原子炉補機冷却設備	変更なし	変更なし	609.6	12.0	SM400B
	(注2) 0.7	40	(注3) 609.6	(注3) 12	SS41						
原子炉補機冷却設備	(注4) 0.7	40	(注3, 5, 6) 609.6	(注3, 5, 6) 12.7	(注5, 6) SS41	原子炉補機冷却設備	変更なし	40	609.6	12.7	SS41
	(注4) 1.2	40	(注3, 5, 6) 609.6	(注3, 5, 6) 12.7	(注5, 6) SS41						
原子炉補機冷却設備	(注4) 1.2	40	(注3, 5, 6) 609.6	(注3, 5, 6) 12.0	SM400B	原子炉補機冷却設備	変更なし	40	609.6	12.0	SM400B
	(注4) 1.2	40	(注3, 5, 6) 609.6	(注3, 5, 6) 12.7	(注5, 6) SS41						

変更前					変更後								
名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名	称	最高使用 圧 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
原子炉補機冷却設備							可搬型原子炉						
							補機冷却水 循環ポンプ 出口接続点 ～	(注4)	(注4)	(注3)	(注3, 50)	STPT370	
原子炉補機冷却設備							可搬型原子炉	0.33	40	34.0	3.4		
							補機冷却水 循環ポンプ 出口配管合流点 A海水供給母管 接続口 ～ Aa、Ab 海水ストレーナ 入口配管合流点	(注4)	(注4)	(注3)	(注3, 50)	STPT370	

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クローラA、B、C～テイ (20×20×16)」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

- (注4) 重大事故等時における使用時の値
- (注5) 本設備は既存の設備である。
- (注6) エルボを示す。
- (注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クローラ出口連絡管」と記載
- (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダA、B：テイ (20×20×16) ～レジュューサ (20×14)」と記載
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (20×14) ～内部スプレクローラ」と記載
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダC：テイ (16×16×16) ～レジュューサ (16×12)」と記載
- (注11) 当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダC：レジュューサ (16×12) ～テイ (20×20×16)」と記載
- (注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダA、B：内部スプレクローラ～レジュューサ (20×14)」と記載
- (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダA、B：レジュューサ (20×14) ～テイ (20×20×16)」と記載
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ入口連絡管」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「テイ (20×20×16) ～1次系冷却水ポンプA、B、C、D」と記載
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口レジュューサ (16×12) ～テイ (20×20×16)」と記載
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口連絡管」と記載
- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプA、D出口テイ (20×20×16) ～1次系冷却水クローラA、C入口テイ (20×20×16)」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クローラ入口連絡管」と記載
- (注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「テイ (20×20×16) 及びレジュューサ (20×16) ～1次系冷却水クローラA、C及びB」と記載
- 載
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～余熱除去クローラ (RH-2) A、B」と記載
- (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クローラ (RH-2) A、B～戻母管合流点」と記載
- (注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～冷却材ポンプA、B、Cへの分岐点」と記載

- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却材ポンプB、Cからの合流点～弁 (2-FCV-1241)」と記載
- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却材ポンプA、Bからの合流点～戻管 (8B) 合流点」と記載
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次冷却水ポンプ入口分岐点～弁 (2-5105A、B)」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-5105A、B) ～1次系冷却水タンク」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管A、B分岐点～燃料ピットクローラ」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料ピットクローラ～1次系機器冷却水戻母管A、B合流点」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余剰抽水クローラ」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余剰抽水クローラ～1次系機器冷却水戻母管 (10B) 合流点」と記載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管～レジェューサ (3×2)」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (3×2) ～計器用コンプレッサパッケージIA-1A、IA-1B入口レジェューサ (2×1 1/2)」と記載
- (注35) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「計器用コンプレッサパッケージIA-1A、IA-1B出口レジェューサ (2×1 1/2) ～レジェューサ (3×2)」と記載
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (3×2) ～1次系機器冷却水戻母管」と記載
- (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余剰除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置入口レジェューサ (3×2)」と記載
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (3×2) ～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジェューサ (4×2)」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (4×2) ～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余剰除去ポンプおよびスプレポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～レジェューサ (2×1 1/2)」と記載
- (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余剰除去ポンプ冷却ライン分岐点～余剰除去ポンプ入口レジェューサ (1 1/2×1/2)」と記載

- (注43) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (2×1 1/2) ～内部スプレポンプ入口分岐点」と記載
- (注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ入口分岐点～レジュューサ (1×1/2)」と記載
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (1×1/2) ～内部スプレポンプ出口合流点」と記載
- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ出口合流点～レジュューサ (2×1 1/2)」と記載
- (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ出入口管」と記載
- (注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ出口レジュューサ (1 1/2×1/2) ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ冷却もどりライン合流点」と記載
- (注50) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (2×1 1/2) ～レジュューサ (3×2)」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジュューサ (12×10)」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (12×10) ～レジュューサ (10×6)」と記載
- (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～レジュューサ (6×4)」と記載
- (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (6×4) 及び分岐点～レジュューサ (4×2)」と記載
- (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (4×2) および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載
- (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (4×2) ～レジュューサ (6×4) 及び合流点」と記載
- (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (6×4) ～VS-39Bからの合流点 (VS-39A)」と記載
- (注59) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (10×6) ～レジュューサ (12×10)」と記載
- (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (12×10) ～レジュューサ (12×8)」と記載
- (注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (12×8) ～レジュューサ (12×8)」と記載
- (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (12×8) ～1次系機器冷却水戻管合流点」と記載
- (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～充てん/高圧注入ポンプ分岐点」と記載
- (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ入口分岐点～レジュューサ (2×1 1/2) および (2 1/2×2)」

と記載

(注65) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (2×1 1/2) ～充てん／高圧注入ポンプ～レジェューサ (2×1 1/2)」と記載

と記載

(注66) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (2 1/2×2) 充てん／高圧注入ポンプ～レジェューサ (2 1/2×2)」と記載

(注67) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (2×1 1/2) およびレジェューサ (2 1/2×2) ～充てん／高圧注入ポンプ出口合流点」と記載

(注68) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口合流点～充てんポンプ室空調装置冷却戻ライン合流点」

と記載

(注69) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプから中間建屋入口まで」と記載

(注70) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載

(注71) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「中間建屋入口～海水母管分岐点及びレジェューサ (30×24)」と記載

(注72) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点及びレジェューサ (30×24) ～1次系冷却水クーラ」と記載

(注73) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ～戻母管」と記載

(注74) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「中間建屋出口までの戻母管 (埋設部除く)」と記載

(注75) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「戻母管分岐点～ラプチャディスク」と記載

(注76) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～連絡管レジェューサ (10×8)」と記載

(注77) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「連絡管分岐点～デIZER発電機」と記載

(注78) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「デIZER発電機～レジェューサ (12×8) 及び合流点」と記載

(注79) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジェューサ (12×8) ～海水戻母管」と記載

(注80) STPT38同等材料 (STPT370) への取替えを行う。

(注81) STPG42同等材料 (STPG410) への取替えを行う。

(注82) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPG42」と記載

(注83) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

変更前				変更後			
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	径厚 (mm)	外径 (mm)	最高使用温度 (°C)
原子炉補機冷却設備	0.7	40	(注3, 84)	(注3, 84)	(注84)		
			762	12	SS400		
			(注3)	(注3)			
			762.0	12.7	SM400B		
			(注3, 6, 84)	(注3, 6, 84)	(注6, 84)		
			762.0	12.7	SS400		
			(注3, 84)	(注3, 84)			
			762.0	12.7	(注84)		
			—	—	SS400		
			609.6	12.7			
(注3, 84)	(注3, 84)						
762.0	12.7						
—	—						
762.0	12.7	(注84)					
—	—	SS400					
762.0	12.7						
—	—						
762.0	12.7						

変更なし

変更前				変更後						
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	径厚 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備	0.7 (注4)	40	(注3, 84)	(注3, 84)	(注84)	原子炉補機冷却設備				
			762	12	SS400					
中間建屋入口 A、B系	1.2 (注4)		(注3)	(注3)	SM400B	原子炉補機冷却設備				
			762.0	12.7						
海水供給母管 分岐点 及び 1次系	(注4)	40	(注3, 84)	(注3, 84)		原子炉補機冷却設備		変更なし		
			762.0	12.7						
冷却水クローラ A、C入口ライン レジューサ (30×24)	1.2 (注4)	40			SS400	原子炉補機冷却設備				
			762.0	12.7						

変更前		変更後								
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	径厚 (mm)	外径 (mm)	最高使用温度 (°C)	径厚 (mm)	外径 (mm)	材料
原子炉補機冷却設備										
中間建屋入口 A、B系 ～ 海水供給母管 分岐点 及び 1次系 冷却水クーラ A、C入口ライン レジューサ (30×24)	(注4) 1.2	(注4) 40	(注3, 84) 762.0 ／ 762.0 ／ 609.6	(注3, 84) 12.7 ／ 12.7 ／ 12.7	(注84) SS400		変更なし			

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	径厚 (mm)	材料
海水供給母管 分岐点 及び 1次系 冷却水クローラ A、C入口ライン レジューサ (30×24) ～ 1次系冷却水 クローラ A、B、C	0.7	40	(注3, 84) 609.6	(注3, 84) 12	(注84) SS400	原子炉補機冷却設備	変更なし				
			(注3) 609.6	(注3) 12.0	SM400B						
	(注4) 0.7	(注4) 40	(注3, 6, 84) 609.6	(注3, 6, 84) 12.7	(注6, 84) SS400						
	0.7	40	(注3, 84) 609.6	(注3, 84) 12	(注84) SS400						
			(注3) 609.6	(注3) 12.0	SM400B						
	(注4) 1.2	(注4) 40	(注3, 6, 84) 609.6	(注3, 6, 84) 12.7	(注6, 84) SS400						

- (注43) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (2×1 1/2) ～内部スプレポンプ入口分岐点」と記載
- (注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ入口分岐点～レジュューサ (1×1/2)」と記載
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (1×1/2) ～内部スプレポンプ出口合流点」と記載
- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ出口合流点～レジュューサ (2×1 1/2)」と記載
- (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ出入口管」と記載
- (注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ出口レジュューサ (1 1/2×1/2) ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ冷却もどりライン合流点」と記載
- (注50) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (2×1 1/2) ～レジュューサ (3×2)」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジュューサ (12×10)」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (12×10) ～レジュューサ (10×6)」と記載
- (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～レジュューサ (6×4)」と記載
- (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (6×4) 及び分岐点～レジュューサ (4×2)」と記載
- (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (4×2) および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載
- (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (4×2) ～レジュューサ (6×4) 及び合流点」と記載
- (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (6×4) ～VS-39Bからの合流点 (VS-39A)」と記載
- (注59) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (10×6) ～レジュューサ (12×10)」と記載
- (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (12×10) ～レジュューサ (12×8)」と記載
- (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～充てん／高圧注入ポンプ分岐点」と記載
- (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ入口分岐点～レジュューサ (2×1 1/2) および (2 1/2×2)」

と記載

(注65) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (2×1 1/2) ～充てん/高圧注入ポンプ～レジュューサ (2×1 1/2)」と記載

と記載

(注66) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (2 1/2×2) 充てん/高圧注入ポンプ～レジュューサ (2 1/2×2)」と記載

(注67) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (2×1 1/2) およびレジュューサ (2 1/2×2) ～充てん/高圧注入ポンプ出口

口合流点」と記載

(注68) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ出口合流点～充てんポンプ室空調装置冷却戻ライン合流点」

と記載

(注69) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプから中間建屋入口まで」と記載

(注70) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載

(注77) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「連絡管分岐点～ディーゼル発電機」と記載

(注78) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電機～レジュューサ (12×8) 及び合流点」と記載

(注79) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジュューサ (12×8) ～海水戻母管」と記載

(注80) STPT38同等材 (STPT370) への取替えを行う。

(注81) STPG42同等材 (STPG410) への取替えを行う。

(注82) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPG42」と記載

(注83) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

(注84) SS41同等材 (SS400) への取替えを行う。

(注85) 注記について記載の適正化を行う。平成28年6月10日付け原規規発第1606105号にて認可された既工事計画書に記載の「重大事故等時における使用時の値」を削除

(注86) 記載の適正化を行う。平成28年6月10日付け原規規発第1606105号にて認可された既工事計画書には変更後に記載